

OIC の信仰声明

第 1 : 私たちは、聖書が神の靈感による、誤りのない御言葉であることを信じます。

テモテへの手紙第二 3:16-17 「¹⁶ 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。¹⁷ それは、神の人がすべての良い働きのためのふさわしい十分に整えられた者となるためです。」 (NASB)

皆さん、おはようございます。皆さんとまたお会い出来て嬉しいです。アリスティア牧師がこの教会の牧師を引退して以来、私が皆さんに、お話しする機会がある時、皆さんにお聞かせする説教材料が沢山あります。その中でも、是非お話ししたいことの一つは、私たちの教会の「信仰声明」の各段落を通して、私たちが大阪インターナショナル教会のメンバーとして拠って立つ基礎となる教理を皆さんに概説することです。信仰声明には 10 の段落があり、それぞれの段落について一つの説教をする予定です。ですから、今日から 10 回シリーズで、月に、1、2 回の説教をする予定です。

ところで、私が最近、神学校で学び始めたことは、多くの方がご存じだと思います。長年、聖書を読み、黙想し、あらゆる種類の説教や講義を聞いてきましたが、昨年、そろそろ正式な神学的訓練を始めるべきと判断しました。そこで、このメッセージシリーズでは、私が神学校で学んできた内容を、皆さんにお伝えしていきたいと思います。

今日の説教題: 「OIC の信仰声明 第 1 : 私たちは、聖書が神の靈感による、誤りのない御言葉であることを信じます。」このタイトルは、大阪インターナショナル教会の信仰声明の第 1 段落を要約したものです。その第 1 段落を全文読んでみましょう。

私たちは、旧約、新約聖書の両方が、原文に誤りのない、神の靈感による神の言葉であり、人類の救いという神の完全なる啓示であり、すべてのキリスト者の信仰とその人生に対して、神聖かつ最高権威を持つものである、と信じる。テモテへの手紙 第二 3 章 16 節

本日のメッセージは、テモテへの手紙 第二 3 章 16 - 17 節 (NASB) を中心にお話ししたいと思います。「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのため

に有益です。¹⁷ それは、神の人がすべての良い働きのためのふさわしい十分に整えられた者となるためです。」

この箇所で、それぞれの句を簡単に見てみましょう。後ほど、これらの短いコメントを詳しく説明していきます。

「すべての聖書は、神…によって… 霊感を受けたものである。」この “Inspired by God” という言葉は、文字通り 「神の息を受けた」という意味です。聖書の言葉は神の言葉であり、神の権威をもって語られたものです。もちろん、聖書の各書物には人間の著者がいて、その著者は特定の時代と場所で、特定の読者に向けて書いていますが、その著者が書いた言葉には神の力と権威が吹き込められています。ですから、それらは私たちへの神のメッセージとなります。

このことに関連して、ペテロの手紙 第二 1 章 20-21 節 (NASB) はこう言っています。「それには何よりも次のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはならない、ということです。²¹ なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。」

テモテへの手紙 第二に戻りましょう。

聖書はすべて「有益」です。有益には… 主に 4 つの事があります。

1. 教えのために - : この言葉は 「教理/教義」 または 「指南」と訳されることがあります。聖書は私たちが教理を得る場所であり、誠実に生きるための導きでもあります。

2. 戒めのために : この言葉は 「叱責」と訳されることがあります。これは強い言葉です。しかし、もしクリスチャンだと公言する人が、間違った教えを守っていたり、不道德な行為をしていたりするなら、その人を叱責することで、正しい道に戻し、健康的な教理と誠実な生活に従わせなければなりません。

3. 矯正のために : これは前の言葉より肯定的な響きを持つ言葉です。私たちは皆、間違いを犯すので、時には矯正される必要があります。聖書は、私たちの生活の中で、考え方や行動を正すべきところを示しています。

4. 義の訓練のために : 訓練。これもポジティブな意味合いを持つ言葉です。私はクリスチャンとして何十年も生きていますが、まだ 「訓練中」 だと感じるがよくあります。これは生涯続くプロセスであり、聖書は私たちがどのように生きるべきか、つまり、どのように益々、キリストの似姿に形作られていくかを教えてくれる無尽蔵の源なのです。それがこの人生における私たちの目標であるべきです。

17 節を見ましょう。「それは、神の人がすべての良い働きのためのふさわしい十分に整えられた者となるためです。」聖書が私たちを教え、訓練した後、私たちは、神が私たちのために用意された働きをするために、十分に備えられます。十分に可能になります。十分に備えられます。

これはエペソ人への手紙 4 章 11-12 節 (NASB) を思い起こさせます- 「こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。¹²それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、」

12 節には再び、*聖徒を整えて、奉仕の働きをさせ* とあります。

神は、私たちに使徒と預言者と牧師と教師を与えてくださいました。それはあなたと私（私たち教会員）を整えて、「キリストの体」、つまり教会を建て上げる役割を果たすために、奉仕の働きをさせるためです。聖書と神から与えられた教師たちが、あなたと私にミニストリーをさせるために備えているのです。

さて、以上がテモテへの手紙 第二 3 章 16-17 節の簡単な概要です。それでは、この箇所と OIC の信仰声明の最初の段落にある、いくつかの鍵となる言葉をもう少し詳しく見てみましょう。

Part 1 : 聖書

パウロが書いている時点では、この「聖書」という言葉は旧約聖書を指しており、キリスト教徒は常に旧約聖書をキリスト教信仰の基礎となる重要な聖典として大切にしてきました。実際、パウロはその前の節、テモテへの手紙 第二 3 章 (NASB) の 15 節で興味深いことを言っています... テモテについて、「また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。」と言っています。この「聖書」とは旧約聖書のことで、使徒たちはこれらの書物がイエス・キリストにある救いを指し示していると信じていたことが、ここでわかります。

実際、ルカによる福音書 24 章 44-48 節 (NASB) には、復活されたイエスが弟子たちにこう説明されているのがわかります。「さて、そこでイエスは言われた。「わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就するということでした。」⁴⁵そこ

で、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、⁴⁶こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、⁴⁷その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。⁴⁸あなたがたは、これらのことの証人です。」

今日は時間がありませんので、旧約聖書の中で、来きたるべきメシアと人類の救済のために神のなされる計画についての預言がある箇所をすべて紹介することはできません。しかし、使徒たちは、聖霊の導きによって、これらのことを理解するようになり、この福音のメッセージを他の国々に宣べ伝えました。

ルカの福音書 24 章 45 節とテモテへの手紙 第二 3 章 16 節にある「聖書」というギリシャ語は、グラフェイ (Graphē) といいます。この単語は新約聖書に 51 回出てきますが、常に旧約聖書の正典の事を言っています。しかし、新約聖書には、この言葉がより広い範囲に及んでいると思われる箇所が二箇所あります。

テモテへの手紙 第一 5 章 18 節 (ESV) を見てみましょう。「聖書に「穀物をこなしている牛に、くつこを掛けてはいけない。」また、「働き手が報酬を受けることは当然である。」とされているからです。」ここでの最初の引用は、旧約聖書の申命記からです。2 つ目は、ルカの福音書 10 章 7 節からの引用です。ルカの福音書から イエスが言われたことを、ルカが書き留めたのです。「働き手が報酬を受けることは当然である。」そして、ルカが新約聖書に書いたことは、テモテへの手紙 第一 5 章 18 節で「聖典」と呼ばれています。

ペテロの手紙 第二 3 章 15 - 16 節 (ESV) にも興味深い言葉があります。「また、私たちの主の忍耐は救いであると考えなさい。それは、私たちの愛する兄弟パウロも、その与えられた知恵に従って、あなたがたに書き送ったとおりです。¹⁶その中で、ほかのすべての手紙でもそうなのですが、このことについて語っています。その手紙の中には理解しにくいところもあります。無知な、心の定まらない人たちは、聖書の他の個所のばあいもそうするのですが、それらの手紙を曲解し、自分自身に滅びを招いています。」

ここに見られる二つのことを強調したいと思います。第一に、使徒たちが生きている間に、パウロ書簡は教会の間で巡回されていたようです。すでにパウロ書簡は、キリスト教共同体にとって特別なものであり、彼らの間で共有されていました。第二に、使徒ペテロは、使徒パウロの書簡が「聖書」の中に含まれていると言っていることです。これもギリシャ語のグラフェイ (Graphē) という言葉で、正典である旧約聖書を指しています。しかし、この単語は新約聖書にも使われていることが分かります。

先ほど、旧約聖書を表すために形容詞の「正典の」という言葉を使いました。この言葉の名詞形は“canon”で、私たちはよくこの言葉を使って“聖書の正典”について話します。この“正典”という言葉は、信仰共同体によって公式に認められた、聖書の権威ある書物のリストという意味です。ギリシャ語の原語は「カノン」(κάνων)で、「物差し」「定規」という意味です。この言葉は、聖書について語るとき、神の靈感を受けた権威ある書物として認められている聖書の書物を指しています。つまり、これらの書物は、あらゆる教えや行動を評価するための適切な尺度であるということです。私たちの信仰声明で述べられているように、聖書は「すべてのキリスト教の信仰と生活のための神聖かつ最終的な権威」なのです。

Part 2: すべての聖書は「神の靈感によって」... 「神の息を受けた」

ここでのギリシャ語は、theopneustos (セイオップニュストス) です。「Theo」(セイオ)は「神」。そして「pneustos」(プニュストス)は「息を吸う」あるいは「靈感によって与えられた」を意味します。

この本、聖書に書かれている言葉そのものが、神の靈感によって、私たちに与えられたものなのです。ある人は、このプロセスを、神が人間の著者に言葉を口述している、一種の口述筆記と想像しています。いいえ、そうではありません.....それはプロセスを見る正しい方法ではありません。もちろん、聖書の中には、神の言葉が一字一句正確に書き記されている例もあります。例えば、モーセの十戒やその他の律法の一部が与えられたことがその一例かもしれません。しかし、一般的に言えば、神による靈感は機械的なプロセスではなく、口述筆記という言葉を使うならば、そのようなことが暗に意味されてしまいます。

福音主義者たちは一般的に、聖書を書き留めるプロセスを「言語すべてが靈感」と表現することを好みます。「言語すべてが靈感」、この観点では、神は書かれた聖書の中に、神が望まれた言葉そのものを生み出されたのです。“verbal”は言葉という意味です。“plenary”はすべてを意味します。聖書の中のすべての言葉は、私たちの神によって靈感されたものです。

そしてもちろん、神の靈感を受けているので、聖書の言葉は神の御性格である真理性、聖性、権威を反映しています。

私が持っているESVスタディバイブルのエッセイの中から、ある引用を紹介したいと思います。この引用は、「聖書の教理」というエッセイに書かれています。

聖書は「神の息を受けた」ものであり、その真の権威、力、聖なる性格は、神ご自身が人間の著者にインスピレーションを与えて、まさに神が書かせたかったことを書か

せたからです。神が単に言葉を指示するのではなく、神は彼らのユニークな個性と状況を通して働かれました。ですから、聖書は人間的であると同時に、神的でもあるのです。聖書は神の啓示に対する人間の証しであると同時に、神の啓示そのものでもあるのです。

最後の文章をもう一度読んでみましょう。「聖書は.....神の啓示に対する人間の証言であると同時に、神の啓示そのものである。」

さて、本日の説教も半分を過ぎました。今日のメッセージの後半は、OICの「信仰声明」の第一段落に焦点を当てたいと思います。もう一度読んでみましょう。

私たちは、旧約、新約聖書の両方が、原文に誤りのない、神の靈感による神の言葉であり、人類の救いという神の御心の完全なる啓示であり、すべてのキリスト者の信仰とその人生に対して、神聖かつ最高の権威を持つもの、と信じる。

以下の言葉に注目したいと思います。

- * 原文に誤りがないこと
- * 人の救いに対する神の意志の完全なる啓示
- * すべてのキリスト教の信仰と生活のための神聖かつ最終的な権威である。

Part 3 : 聖書は「原文に誤りがない」。

これを“聖書の無謬性”の教理と呼んでいます。まず、神の言葉の真実性を宣言しているいくつかの聖句を紹介したいと思います。そして、もう一つの引用を紹介したいと思います。

詩篇 119 : 160 (ESV) - 「みことばのすべてはまことです。あなたの義のさばきはことごとく、とこしえに至ります。」

ヨハネの福音書 17 章 17 節 (ESV) で、イエスは父に祈っています-「真理によって彼らを聖別してください。あなたのみことばは真理です。」 あなたのみことばは真理です。

コロサイ人への手紙 1 章 5 節 (ESV) でパウロはこう書いています- 「それらは、あなたがたのために天にたくわえられてある望みに基づくものです。あなたがたは、すでにこの望みのことを、福音の真理のことばの中で聞きました。」 *福音の 真理のことば*

聖書の無謬性という教理について、私はこの教理を明確かつ簡潔に説明していると思われる興味深い引用を紹介したいと思います。再び、これは ESV スタディバイブルの聖書の教理に関するエッセイです。

無謬性の教理とは、聖書がその原典において断言しているすべてのことについて、完全に真実であり、信頼できるということです。別の言い方をすれば、聖書は事実と反することは何一つ断言していないということです。聖書の最終的な著者は神であり、神はいつも完全に真実であるので、神の言葉も完全に真実であることとなります。神は「嘘をつかない神」(テトス 1:2) であり、偽りのものを肯定することは神の性格に反します。神は全知全能であり、常に真実で善良であり、全能であるため、常に真実を知り、伝え、その言葉を伝えることができるのです。「今、神、主よ。あなたこそ神で在られます。あなたのおことばはまことです。あなたは、このしもべに、この良いことを約束してくださいました。」(2サム 7:28)。「神の言葉はすべて真実である」(箴言 30:5、詩 12:6、119:42、ヨハネ 17:17 を参照)。

無謬性は、21 世紀的な正確さや科学的な専門用語を必要としない。聖書的無謬性に関するシカゴ声明からの次の引用は、このような事で無謬性を言うつもりではないことを要約しています。「私たちは、神学用語として、聖書の完全な真実性に関して、無謬性を用いることが適切であることを確認する。私たちは、聖書の使い方や目的とは異なる真理と誤りの基準によって聖書を評価することが適切であることを否定する。さらに、現代的な技術的正確さの欠如、文法や綴りの不規則さ、自然の観察的記述、虚偽の報告、誇張やおおよその数字の使用、資料のテーマに基づく配置、並行する記述における資料の様々な選択、自由な引用の使用などの聖書の現象によって無謬性が否定されることも否定する」

(Chicago Statement on Biblical Inerrancy, Art. XIII) .

聖書の無謬性は、信者に、神が知りたがっているすべてのこと、また敬虔と永遠のいのちに必要なすべてのことを理解するための確かな基礎として、聖書に大きな確信を与える。

最後のことばは、聖書の主要な目的をととても良くまとめています。：聖書は私たちが神を敬う生き方をするために必要なことをすべて教え、永遠の救いの道を教えてくれるのです。

ところで、私たちの信仰声明でも、今お話した引用文でも、私たちが「聖書に誤りがない」と言うとき、それは原著、つまりオリジナルの写本のことであることに注意してください。モーセやダビデ、さまざまな預言者や使徒が言葉を書き記したとき、それらの記述はその原典では間違いのないものでした。しかし、時とともに、手で何度も写されるうちに、写し間違いが生じました。今日、聖書の出版物で脚注が詳しく書かれているものを見ると、そこには古い写本に見られる読み方の違いについて書かれていることがあります。しかし、そのような間違いは些細なことであり、聖書の真実性に対する私たちの信頼に影響を与えるものではありません。原著者によるオリジナルの構成では、記述に間違いはないのです。

Part 4 : 聖書は 「人類の救済のための神の意志の完全な啓示」

ESV スタディバイブルからの引用の最後の文をもう一回見てみましょう。

聖書の無謬性は、信者に、神が知りたがっているすべてのこと、また敬虔と永遠のいのちに必要なすべてのことを理解するための確かな基礎として、聖書に大きな確信を与える。

その文章は、聖書の主要な目的をととても良くまとめています。：聖書は私たちが神を敬う生き方をするために必要なことをすべて教え、永遠の救いの道を教えてくれるのです。

ヨハネの福音書 3 章 16 節 (NIV) - 「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは、御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

ローマ人への手紙 10 章 9-10 節 (ESV) - 「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。¹⁰人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」

次に、聖書がいかに救いの道を語る上で重要であるかを語っている箇所を紹介します。そして、忠実な親が子供たちに正しい道を伝えることがいかに重要であるかということです。パウロがテモテに言ったテモテへの手紙 第二 1 章 5 節 (NASB) を読みましょう。「私はあなたの純粋な信仰を思い起こしています。そのような信仰は、最初あなたの祖母ロイスと、あなたの母ユニケのうちに宿ったものですが、それがあなたのうちにも宿っていることを、私は確信しています。」親が幼い頃から子供たちに福音のメッセージを伝えることは本当に大切です。以前お話したように、私もそうでした・・・私の母が子供たちを通わせた日曜学校のプログラムが充実していたことを、とても感謝しています。日曜学校は子供たちにとって、なんと大切な土台となることでしょうか。

パウロは、3章14節と15節（NASB）でテモテにいくつかの言葉を続けています。今日、15節について、すでにコメントしましたが、14節も見てください。「¹⁴けれどもあなたは、学んで確信したところにとどまっていなさい。あなたは自分が、どの人たちからそれを学んだかを知っており、¹⁵また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。」

旧約聖書がいかにキリストを指し示しているかは、前にお話ししたとおりです。使徒たちが福音のメッセージを広めるときに教えたのは、このようなことだったのです。使徒の働き17章に、興味深い話があります。パウロとその仲間はテサロニケという町で教えていましたが、そこでは歓迎されなかったため、去らなければならず、彼らはベレヤという町に向かいました。

使徒の働き17章10-12節（NASB）を読んでみましょう-「兄弟たちは、すぐさま、夜のうちにパウロとシラスをベレヤへ送り出した。ふたりはそこに着くと、ユダヤ人の会堂に入って行った。¹¹このユダヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも良い人たちで、非常に熱心にみことばを聞き、はたしてそのとおりかどうかと毎日聖書を調べた。¹²そのため、彼らのうちの多くの者が信仰に入った。その中にはギリシヤの貴婦人や男子も少なくなかった。」

ベレヤの人々は、「これらのことがそうであるかどうか、毎日聖書を調べていた。」彼らは、イエス・キリストが約束のメシアであるというパウロとシラスの言葉が真実であるかどうか、熱心に聖書を調べました。そして、信じたのです。今日、「ベレヤ人」という言葉は、熱心に聖書を調べようとする人々を指す言葉として、クリスチャンの間でよく使われています。多くの聖書研究グループや教会が、この名前で自分たちを呼んでいます。お気づきの方もいらっしゃるかもしれませんが、この「ベレヤ人」という言葉の使い方は、使徒の働き17章の、この話を思い起こさせ、私たち全員が聖なる聖書を本当に知ることがいかに重要であるかを思い起こさせます。

さて、聖書を学ぶことの大切さについて、まだまだたくさんの聖句を読むことができますが、今日のメッセージの最後の部分に移りたいと思います。

Part 5 : 聖書は、すべてのキリスト教の信仰と生活のための神の権威である。

キリスト教の信仰と実践の権威としての聖書の位置づけは、16世紀のプロテスタントの宗教改革の際に大きな問題となりました。当時の教会組織は、教理と実践の問題を最終的に決定するのはローマの教会のリーダーシップであるとしていました。しかし、マルティン・ルターをはじめとするプロテスタントの改革者たちは、そうではないと主張しました。ルターは、教会が現在伝えている多くの慣習や教理が聖書と一致していないことを指摘しました。彼は、古代の教父や教会議会の宣言の中にも誤りがあることを指摘し、多くの論争を巻き起こしました。私たちの教理と教会生活の最終的な権威は、ただ聖書にのみ見出すことができます。この原則はラテン語で“Sola Scriptura”、つまり聖書のみとされています。もちろん彼らは、読むべき貴重なキリスト教の本があることを認識していました。しかし、聖書は最終的な権威でなければなりません。私たちが主張するすべての教理、私たちが従うべきすべての実践（教会生活と私生活）は、神の言葉である聖書に沿ったものでなければなりません。プロテスタントの改革者たちは、この確信のもとに、聖書を人々の共通語に翻訳し、できるだけ多くの人々の手に渡そうとしたのです。

私が、教会史が好きなことは、多くの人が知っています。そして、この聖書を容易に手に入れることができる私たちの大きな特権について、しばしば思いを巡らします。キリスト教の歴史のほとんどの期間、庶民は読み書きができず、この書物を自分で読むことができませんでした。しかし、聖書によって生活を整えようという改革派の呼びかけにより、この本が一般言語に翻訳され、近代には印刷機が発明されて識字率が向上したことにより、今日私たちは神の言葉を簡単に手に入れることができるようになったのです。ですから、私はすべての仲間のクリスチャンに、この書を読み、その言葉を黙想し、読み続け、黙想し続けることを勧めて、今日のメッセージを終えたいと思います。この言葉によって生き、あなたの神を知りましょう。聖書は、私たちに教え、義の訓練をするための、神からの貴重な贈り物です。